インド・ブータン農産物物流視察②

コールドチェーンの地図をゼロから描く

農業振興に意欲的な西ベンガル州

インド東部に位置する西ベンガル州。州都コルカタはイギリス領インド帝国時代の前半は植民地政府の首都機能を有し、かつてはインド最大の産業都市だった。パキスタン分離独立によりベンガル地方東部を失ったいまもインド東部の経済の中心地と位置付けられる。南北縦に長く、肥沃な土地を有する西ベンガル州は農業の振興に意欲的で、ママタ・バナジー州知事主導のプロジェクトとして「スファール・バングラプロジェクト」を推進している。

西ベンガル州は富裕層もおり、経済状況も悪くはないが、農業の振興に注力するのには、工場誘致に関する過去のトラウマも影響している。当時の州政府が農地の買収を強制的に行い、インド自動車大手のタタ・モーターズによる西ベンガル州シングールでの工場建設計画が進められたが、土地の返還を求めて反対する住民運動が激化し、２００８年、タタ・モーターズは工場建設を断念せざるを得なかった。

同州には歴史の長い商社に加え、鉄鋼、建機、ＩＴ、農水、消費財販売等で日系企業が進出している。日系企業の進出数は昨年10月現在19企業、２０９拠点。夛賀政幸・在インド・コルカタ日本国総領事は、「製造業の拠点投資は難しく、州政府は農業を中心とした政策を進めている」と話す。西ベンガル州は南北に伸びた地形でエリアごとに異なる作物が採れる。州政府は農業への外資の投資には歓迎的だという。川崎陸送のインドにおける定温倉庫建設について、西ベンガル州政府が強い関心を示したのもこうした背景がある。

農家の所得向上へ「スファール・バングラＰＪ」

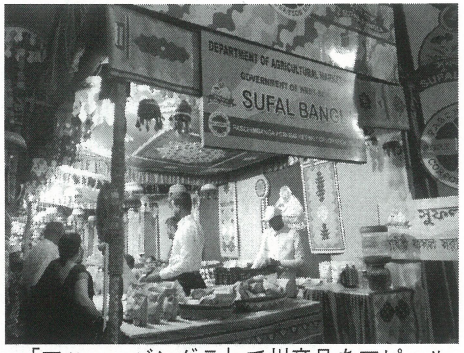
同州が進めている「スファール・バングラプロジェクト」は農家の所得向上を目指すもの。農家が「クリシャック・バザール」と呼ばれる州政府管理市場に直接農産物を持ち込み、州政府が選果後、グレードに応じて買い上げ、消費者に直接販売する。州政府が高い値段で買い取るが、多段階で入るブローカーによる中間マージンがなくなるため、消費者は通常より安い値段で新鮮な野菜を手に入れることができる。

シングールの「クリシャック・バザール」の野菜

西ベンガル州は人口の約６割が農家。しかし、平均耕作面積が１アールに満たず、農家の所得は低く、電気代が高いため野菜の冷蔵保管ができない。このため、収穫した野菜は外に放っておくしかなく、すぐに腐ってしまう。農家は生産した野菜を安い値段で売り払ってしまうしかない。スファール・バングラの事務局によると、「農民１人あたりの所得は上がってきているが、世帯あたりではまだまだだ」という。

スファール・バングラでは西ベンガル州産品しか販売せず、「西ベンガル州はコメのほか、ジャガイモ、ジュートの生産量も多く、エリアにより土壌が異なるためいろいろな作物が採れる。ガンジス川のおかげで土地が肥沃なため、野菜の品質はいい」と自信を見せる。

11月下旬には州政府主催の「アハー・バングラ」という、州の食品産業を促進するイベントが開かれ、スファール・バングラも出展した。■



「アハー・バングラ」で州産品をアピール